



腰部脊柱管狭窄症に対する全内視鏡補助下腰椎椎弓切除術 (Assisted Full-endoscopic spine surgery: AFESS) の術後手術成績の検討

2023年4月1日から2024年9月30日までに日本医科大学付属病院整形外科・リウマチ外科にて腰部脊柱管狭窄症のために全内視鏡補助下腰椎椎弓切除術 (Assisted Full-endoscopic spine surgery:以下AFESS) を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「腰部脊柱管狭窄症に対する全内視鏡補助下腰椎椎弓切除術 (Assisted Full-endoscopic spine surgery: AFESS) の術後手術成績の検討」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2023年4月1日から2024年9月30日までに日本医科大学付属病院整形外科・リウマチ外科にて、腰部脊柱管狭窄症のためにAFESSを受けられた患者さんの術後成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：腰部脊柱管狭窄症に対する全内視鏡補助下腰椎椎弓切除術 (Assisted Full-endoscopic spine surgery: AFESS) の術後手術成績の検討

研究期間：研究実施許可日～2026年2月28日

研究責任者：日本医科大学付属病院 整形外科・リウマチ外科 眞島 任史

(2) 研究の意義、目的について

腰部脊柱管狭窄症に対してAFESSは術後合併症や治療成績が有効であるということを明らかにすることを目的といたします。研究の意義としては、AFESSは従来の内視鏡下椎弓切除術に比較し手術時間や術後合併症が低いことが予想されます。そのため患者さんに今後よりより良い外科的治療を提案するためAFESSの治療成績を明らかにすることです。

(3) 研究の方法について (研究に用いる試料・情報の種類)

2023年4月1日から2024年9月30日までに日本医科大学付属病院整形外科・リウマチ外科にて、腰部脊柱管狭窄症に対してAFESSを受けられた患者さんの診療録、放射線画像、手術記録などを解析し、手術時間、脊柱管面積、術中合併症、在院日数についての検討を行います。また、症状の程度としては腰痛、下肢痛のVisual Analog Scale (以下VAS (視覚的に疼痛を評価する尺度)) を用いて術前後を比較します。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、手術時間、脊柱管面積、術中合併症、VAS等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (文部科学省・厚生労働省・経済産業省)」および「共同倫理指針ガイドランス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 整形外科・リウマチ外科 助教・医員 福原 大祐

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5

電話番号：03-3822-2131 (代表)

メールアドレス：d-fukuhara@nms.ac.jp